

超長期ビジョン合宿の進め方等について（案）

1. 合宿用の事前の「コアエレメント」の準備

合宿での検討の準備のため、あらかじめ各検討員が「コアエレメント」5項目を作成し提出。

【「コアエレメント」とは】

超長期ビジョンにおいて重要と思われる要素を50字以内程度の言葉で表現したものを「コアエレメント（ツ）」と呼ぶこととする。

【コアエレメントの内容】

長期ビジョンの核となるような要素というような意味であるが、内容は任意。

各検討員が重要と考えるものであれば、個別環境問題に関するものでも、包括的な内容でも良い。実現したい内容、避けたい状況、などについてもいずれでも良い。

基本的には着地点に関する記述であり、そこに至る経路について厳密な記述は不要であるが、経路についても記述して良い。ただし、可能性のある経路を念頭に置くことを基本とする。

着地点についても、どのような側面から表現するかも含めて自由。（環境や資源の状況か、負荷の状況か、さらにそれらの前提となる社会の主要要素の状況かといった点も含めて自由。）

【項目数】 5項目

【提出時期】 1月9日まで

（提出先：超長期ビジョン検討会事務局）

【活用方法】 合宿前に事務局側においてこれを整理して各検討員に送付する。合宿ではこれを利用してビジョン作成検討を行う。

【コアエレメントの例】

（以下の例はどのようなものを書くかの形式等についての参考のためのものであり、内容についての今後の検討の方向に関して意味を持つものではない。むしろ内容については限定的な例しか示されていない。）

[個別問題を対象とした例]

< 地球温暖化問題 >

・ 将来さらに大きくなる気候変動影響に適応するために、社会インフラ整備が完了している社会。

< 温暖化・都市交通問題 >

・ 都市内の自動車交通は、レンタルの超小型電気自動車が主流となり、交通公害等が大幅に改善される。

< 廃棄物問題 >

・ 廃棄物の埋め立て処分地が枯渇し、廃棄物を埋め立てることを避ける社会。

[社会一般に関する例]

・ 環境教育が充実し、環境負荷削減につながる行動に価値が見出される社会。

・ 環境負荷をもたらす活動・財を経済的負担により抑制し、環境保全や公共の福祉に貢献する活動を促進する社会。

2. 合宿当日の手順について

以下の説明で示す [] ~ [] は、本資料最後に示した『第一回検討会で示したビジョン検討の要素』での各項目を示す。

(1) 一日目 (1 / 19)

全体会議 1 (10:00 ~ 10:30)

【目的】

- ・合宿検討の目的と合宿の作業手順全体の認識を共有すること

(合宿検討の目的は「各領域における持続可能性に関わる問題の認識を踏まえつつ、2050年の持続可能な社会像とそれに向けて何を作成すべきか(超長期ビジョンはどうあるべきか)について検討し、超長期ビジョンの素案を作成すること。」)

【作業】

- ・合宿の目的確認と合宿での作業手順の確認
- ・グループ分け(4検討員×4グループ) 案は後述(「2」)

グループディスカッション 1 (10:30 ~ 13:00)

【目的】

- ・専門分野が比較的近いメンバーごとのグループにおいて、領域内での要素の関係を整理し、当該領域の問題構造を明らかにする。(領域ごとの要素関係図の作成)
 - ・当該領域の観点からの持続性の条件とそれに必要な社会の条件を満たすような、当該グループ担当領域に関する望ましい社会・環境像を得る。(領域ごとの望ましい社会・環境像(着地点)の作成)
- (「ビジョン検討の要素」との関係では、(担当領域に関しての)

[] [] []
を主に検討するものとなる。)

【作業】

- ・A-Dの各グループ(専門分野が比較的近いメンバーにより構成)において、所属検討員担当の個別分野に係る要素関係図をもとに、それらの組み合わせ等によって各グループ担当領域全体としての要素関係図を作成する。
- ・作成した要素関係図に対して持続可能なビジョンのコアエレメンツを貼り付けたり、要素間の因果関係や各要素の変化の方向と量に関する情報等を付加したりしつつ、成り行き社会の展望、持続可能な社会となるために必要な持続性の条件とそのための社会の条件等について議論する。
- ・議論の成果を当該グループの担当領域の観点からの望ましい社会・環境像にまとめる。

【注】

- ・他グループの領域に関するコアエレメンツなど、当該グループの要素関係図で対象としている範囲外のものについては無理に位置付けなくてもよい(グループディスカッション2において位置付ける)。
- ・担当領域に関するコアエレメンツであるにもかかわらず要素関係図での記載がない場合は、要素関係図内の項目を増やして、要素関係図を拡張する。

昼食 (13:00 ~ 14:00)

各グループの作業支援者(国立環境研究所(NIES),(株)みずほ情報総研(MHIR))が、午後の全体会議での説明用の図を作成する。

全体会議 2 (14:00 ~ 15:30)

- ・ 午前のグループディスカッション 1 の各グループにおける成果について、各グループを代表して報告担当者から説明を行う (各グループ: 発表 5 分 + 議論 10 分、全体討議: 30 分)。
- ・ ここではラフなスケッチ & 担当領域についての説明で良い。
- ・ この時点で、文章の作成は不要。

休憩 (15:30 ~ 16:00)

グループディスカッション 2 (16:00 ~ 18:30)

【目的】

- ・ 「グループディスカッション 1」での領域が異なるメンバーにより構成されるグループ 1 - 4 それぞれにおいて、社会全体について持続可能性に関する諸要素の関係を明らかにする。
(グループ 1 - 4 のメンバーはそれぞれグループディスカッション A - D それぞれから 1 名ずつとする)
- ・ 分野間の関係を詳細に記述し、多面的な視点から総合的な着地点 (社会・環境像) とそれに至る経路 (シナリオ) を含むビジョン (広義) を作成する。

【作業】

- ・ グループディスカッション 1 で作成された 4 つの要素関係図をもとに、グループディスカッション 2 のグループごとに全体の要素関係図を作成する。
- ・ 全体の要素関係図を用いて、コアエレメンツ (グループディスカッション 1 で用いられなかったものや、必要に応じ新たなものを含む) を、要素関係図に位置付けたり、各要素の変化の方向と量に関する情報等を付加したりしつつ、成り行き社会の展望や、持続性の条件とそれに必要な社会の条件等について検討を行う。

トレンド抽出

避けるべき課題

望ましい社会・環境

- ・ 作成されたビジョンを実現するような対策、ビジョン実現のために何をしなければならないかについてもとりまとめる。

着手すべき課題

政策手段

【注】

- ・ 要素関係図内の要素が不足している場合は、適宜項目を追加する。
- ・ 各グループでの検討結果をもとに、各グループとしての全体的な持続可能な社会ビジョンをまとめる。
- ・ そのビジョンを表現するため、タイトル、数個以内のコアエレメンツを選択・作成するとともに、そのタイトル及びコアエレメンツに関する説明を文章で示す (原則として A4 一枚程度に収まる分量。追加の詳細な説明文書は任意で添付)。

夕食 + 延長戦 (必要であれば) (18:30 ~ 20:00 を目途)

- ・ グループディスカッション 2 の議論については、夕食時及び夕食後に延長して行うことは可能。

議論終了後、各グループの作業支援者 (NIES, MHIR) が、翌日の全体会議での説明用の図を作成する。

(2) 二日目 (1 / 2 0)

全体会議 3 (9:00 ~ 12:00)

- ・グループディスカッション 2 の各グループの代表者が、各グループでの議論の過程や、持続可能社会のコアエレメンツ、その説明について報告・説明を行う(各グループ:発表 10 分 + 議論 10 分 + 全体討議)。
- ・全体会議 3 では、検討会全体のビジョンのまとめ方についての議論や、アドバイザリー会合において本合宿の成果をどのように提示するかの議論についても、あわせて行う。

解散 (12:00)

【合宿での期待される成果】

- ・全体についての要素関係図 (グループディスカッション 2 の 4 グループごとに)
- ・持続可能社会ビジョン叩き台 (タイトル、コアエレメンツ及び概要説明) (グループディスカッション 2 の 4 グループごとに作成)

2 . グループ分け

グループディスカッション 1 , 2 のグループ分け案 (敬称省略)

		グループディスカッション 2			
		1	2	3	4
グループ ディスカッション 1	A	安井 至	明日香壽川	山本 博一	(花木 啓祐)
	B	太田 宏	西岡 秀三	広井 良典	細田 衛士
	C	柴田 康行	<沖 大幹>	原沢 英夫	川島 博之
	D	若林 敬子	湯原 哲夫	湯本 貴和	森口 祐一

: グループディスカッション 1 の報告担当者

: グループディスカッション 2 の報告担当者

(): グループディスカッション 1 に出席できない検討員

< > : グループディスカッション 2 に出席できない検討員

各グループの報告担当者は、各グループディスカッション後の全体会議において、検討経過、検討結果等を報告する。資料・パワーポイント等の作成については、NIES 及び MHIR が補助を行う。

3 . 国立環境研究所 (NIES) 参加者の対応

NIES からの参加者は、各会議でのメモ取り、図表の作成等の作業支援と、昼食時及び一日目の議論終了後に、続けて行われる全体会合向け資料作成を行う。

4. 合宿後の予定

- 2 / 5 アドバイザリー会合：合宿での作業概要、各グループから提示されたビジョンについて報告。
- 3 / 6 (第7回) 検討会：アドバイザリー会合での意見も踏まえ、検討会としての要素関係図・ビジョンの提示・議論。

5. 参考

第一回検討会で示した「ビジョン検討の要素」及び「ビジョン作成のフレーム」

(1) ビジョン検討の要素

社会経済の大きなトレンド (Driving force): 世界 (とくにアジア、さらにとくに中国) および国内 (地域類型、少なくとも都市、地方別にとらえる必要) トレンド抽出

そのトレンドのもとで予想される unsustainable な (避けるべき) 問題 避けるべき課題

そうした問題を回避しながら、(あるいはそうした問題のあるなしにかかわらず) 「実現したい望ましい将来の社会像・環境像」 望ましい社会・環境

望ましい将来に向けて現在・近未来に着手すべき課題 着手すべき課題

それを実行するための政策手段 政策手段

(2) ビジョン作成のフレーム (抜粋要約)

主要課題ごとに目標となる状態を設定する。

各主要課題の目標設定のすべてを総合的に満たしうる目指すべき社会像 (社会の着地点) を設定する。
設定した目指すべき社会像を実現するための飛行経路 (狭義のシナリオ) を作成する。